

# スタジオ夜話

第 154 スタジオ夜話

## もったいない！SDGsのお話「趣味のオーディオ」

### ☆ はじめに

3月になりました。もう春です。豪雪に日本中が大変だったこともあり。筆者の暮らす伊豆の高原でも3日程外出できない積雪が今年はありません。おまけに我が家の水道管が凍り給湯器が故障、DIYして修理するまで5日間水が使えませんでした。それももう終わりです。春の陽気に気分も良く毎日を過ごしています。皆様はいかがお過ごしでしょうか？世の中はまもなく新年度を迎えます。物価高や様々な課題もありますが前向きに日々過ごしたいと思っています。さて今回のスタジオ夜話、前は面倒くさいジャンルの屁理屈のお話でした。今回は「もったいない！SDGsのお話」として趣味のオーディオ、高度成長期昭和のオーディオを取り上げてみました。「S」=趣味的に。趣味的なお話です。でかなり筆者の個人的意見のお話になります。お付き合いのほどよろしく願いいたします。

### ☆ 「SDGs」について

そもそもSDGsっていったい何なんでしょう？SDGsは直訳すると「Sustainable Development Goals」の略で「持続可能な開発目標」という意味のことです。では「持続可能な開発目標」とは？。将来のために地球環境や資源を守り、今の状態を維持することをいいますが漠然としています。そこで2015年の国連サミットで採択されたSDGsには、2030年までに達成すべき17の目標が掲げられました。

- 1) 人や国の不平等をゼロに
- 2) 飢餓をゼロに
- 3) 貧困をゼロに
- 4) すべての人に健康と福祉を
- 5) 気候変動に具体的な対策
- 6) 安全な水とトイレを世界中に
- 7) クリーンなエネルギーをすべての人に
- 8) 経済成長と働きがい
- 9) 産業や技術革新の基盤整備
- 10) 質の高い教育の普及
- 11) 住み続けられる住環境創り
- 12) つくる責任、つかう責任
- 13) ジェンダー平等

- 14) 海の自然を守る
- 15) 陸の自然を守る
- 16) 全人類の平和と公正
- 17) パートナリシップでSDGs目標を達成(順不同)です。

筆者がこのスタジオ夜話でよくお話する「20年乗れる自家用車」のお話や今回の「もったいない！SDGs」のお話もこの17目標の中の一部なのですが、国連サミット採択内容よりも何か言い方が下世話な感じがするのですが本質は同じところにあると信じています。

### ☆ 昭和の家電「オーディオ編」

昨今レコードやカセットテープが再び注目を集めています。今話題となっている昭和の家電とはいったい何なんでしょう？。昭和の家電とは1950～70年代(昭和30～40年代)高度成長期を支えた生活家電のことです。3種の神器と言われる白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫。また電話機や花柄の炊飯器や電気ポット、テレビのリモコンなどが代表的なものです。ポップな花柄の炊飯器、温かみのあるデザインや機能性が現在「レトロ家電」として再評価されています。現在でも家電量販店ビッグカメラなどではデザインは昭和のレトロ風、中身は現在の部品を使ったレコードプレーヤーやトースターなどが販売されています。さすがに場所を取る家具調の木製テレビやステレオセットなどは販売されていませんがオークションなどでは注目されています。今回はそうした昭和家電、中でも「オーディオ製品」にスタジオ夜話的に焦点をあててみました。

### ☆ 昭和の家電「オーディオ編」I

現在(執筆時)1ドル155円です。かつて1949年から1971年まで日本が戦後GHQの経済政策「ドッジ・ライン」に基づき、1米ドル=360円の固定相場制を採用していた時代がありました。昭和24年～昭和46年までです。正にこの時代が昭和家電普及の全盛時代です。高度成長時代でもあり各家庭の経済も発展して行きました。サラリーマンの海外渡航も増えお土産にはジョニーウォーカーの洋酒などが流行、当時は1ドル360円なので洋酒

の価格はとんでもない高価なものでした。

家庭にはそうしたお土産の洋酒を飾る(飲むではない飾る?)サイドボードが6畳ぐらいの応接間にデンと据え置かれていました。音楽産業も日本の流行歌とともに洋楽も多く聞かれるようになりサイドボードの隣には家具調の木製テレビやステレオセットなどが置かれていたのです。趣味のオーディオの起源です。当時普及したステレオセットはスピーカー、レコードプレーヤー、チューナーなどが一体化したものが主流で、メーカーもコロムビアやビクターといったものが多く出回っていました。もちろん真空管式です。現在でもオークションなどで1万円ぐらいから取引されています。筆者も知人に頼まれ何台か購入して整備しました。若干の改造をすとかかなり「好い音」でレコードが楽しめます。また場所を取りませんがそのデザインが年代物のスコッチを楽しみながらレコードを聴く何とも言えない雰囲気を出します。昭和40年代になると一体型から左右スピーカーを分離したセパレート型が普及、またそれと前後してアンプやチューナー、スピーカーなどを好みにあわせて組み合わせられるコンポーネントスタイル全盛の時代となります。パイオニアやトリオ、サンスイといったメーカーはその前からありましたがこの時代が全盛期と言えるでしょう。パイオニアは福音商会電機製作所、スピーカーメーカーとして創業。トリオは有限会社春日無線電機商会、無線機器メーカーでチューナーで人気を博しました。サンスイは真空管アンプの必需部品の変圧器(トランス)メーカーで山水電気製作所と言いました。昭和家電「オーディオ」の歴史はここから始まります。

### ☆ 昭和の家電「オーディオ編」II

昭和の20年代まではオーディオはごく一部のマニアのものでした。概ねレコードは電蓄で聴く。「電蓄」とは箱の中に安価なプレーヤーとアンプが内蔵されたレコードプレーヤーのことですが、それとて一般家庭にはそれ程普及はしていませんでした。そもそもレコードで音楽を聴くこと自体お洒落なものだったのです。音楽はラジオでというのが定番でした。そのラジオも高価な

もので戦前から戦後、一般家庭には一台あるかといったものでした。そこで電子工作ができるオヤジや少年が東京神田の電気街や大阪市浪速区の日本橋で部品を集め自作を始めたのです。並4（最もシンプルな真空管ラジオ）とか、高級な5球スーパーとかのラジオです。オーディオの自作もこの流れの中で進歩して行きます。海外製の超高級な製品（テレフンケンやRCA等々）も自作でコピーといった感じです。また無い部品は作ります。筆者もかつてはトランスなどを巻いたこともあります。釣りのリールみたいなものにメカニカルなカウンターが付属していて線材の巻き数がわかるようになっていました。とても野蛮なものでしたが手間さえ惜しまなければ実用十分なトランスが完成します。最初はテスターだけで自作していました。多くの自作派は創意と工夫でテスター一丁です。ブリッジ回路を組みコンデンサーやコイルの特定数も測ります。部品は現在何でも安価で手に入るとても良い時代なのですが何故か自作派は絶滅危惧種となっています。が絶滅危惧種にとって昭和家電のオーディオは、SDGs的に12) つくる責任、つかう責任の範囲内で永遠に不滅なのです。例えば真空管アンプは決して高価なものではありません。使う部品や回路構成によってその価格が決まります。またそれによって「音が良く」なるわけでもありません。（電気的スペックの向上には影響）安価な構成でも「好い音」で十分楽しめたのが昭和家電、自作派のオーディオだったのです。

#### ☆ 昭和の家電「オーディオ編」Ⅲ

かろうじて読者皆様もパイオニアやトリオ、サンスイといった国内オーディオメーカーやJBL、マッキン、マランツ、などという海外オーディオメーカーをご存じだと思います。この国内3社は昭和家電全盛のころ普及機から高級機まで扱っていました。海外メーカー製のものは超高級機です。価格も一桁違いました。今現在も筆者宅にあります。マランツ#7のEQアンプ自作コピーは優れモノです。またその後マッキンのC22もコピーして作りました。どちらも製作費は当時1万円ぐらいで出来た記憶があります。見た目はシャーンむき出しの無骨なものです。形にこだわらなければ十分な性能です。趣味ですからデザインやオリジナルが大切と思う方は何十万かけても

良いでしょう。オークションで購入できます。今回の昭和の家電「オーディオ編」のテーマはそこではありません。もったいない！SDGsのお話なのです。SDGs的に12) つくる責任、つかう責任の範囲内を考えてみます。読者皆様は自分で修理する権利がある。ということをご存じでしょうか？世の中のあらゆる製品を購入して壊れたら自分で修理する権利のことです。勿論自己責任で修理するのですがそのための情報はメーカーが隠してはいけないというものです。メーカーは製品の製造にかかわる情報を購入者に提供しなくてはならないのです。修理方法などではありませんのでお間違いなく。少なくとも現行品であればその回路に使われている部品の特定数などは提供しなくてはならないのです。さてそこで昭和の家電「オーディオ編」となるわけですが、さすがにメーカーでも当時物の情報がないことが多いのです。しかし電子部品は汎用性の高いものが多数使用されていました。また代替品も多数存在します。創意工夫で回路変更などもし易いのが昭和家電の良い所です。わかる範囲でメーカーから情報を取得して自己責任で修理する。昭和の家電「オーディオ」の醍醐味です。もったいない！SDGsのお話「音編」です。

#### ☆ 昭和の家電「オーディオ編」Ⅳ

オークションサイトをご覧ください。多くの昭和家電「オーディオ製品」が出回っています。概ねきれいなメーカー製真空管アンプは販売当時の定価と同じぐらいの価格やそれを遥かに上回るプレミア付の価格で販売されています。筆者に言わせれば「馬鹿な金持ち趣味オヤジ世界」のオークション価格だと思います。注目すべきは安価な昭和家電「オーディオ製品」とジャンク物です。ほとんどが壊れていたりするので接触不良などの故障が大半です。また当時のものは回路構成などに特殊なものが少なく、筆者はともかくとして読者皆様は工学部系の技術者の方が多いと思うので修理は出来ると思います。音の出ないアンプなどジャンクをハードオフやオークションサイトなどで購入、大半は文系出身の筆者でもなんとかなります。先日サンスイのチャンネルデバイダーを1500円で購入してきました。現在掃除と基本動作のチェックを終わりました。最初は音が出たり出なかったり、パイロットランプは点灯せずと酷い

ものでしたが見た目はキレイになりました。また接触不良などもクリーナーと接点復活剤で、ボリュームのガリはボリューム交換で使えるところまでできました。あとは測定して問題があれば調整するだけです。我が家のシステムをマルチ駆動してみます。とジャンクはお宝です。確かに現在の製品は安価で高性能なのでそれもよし。しかしお勧めは昭和家電「オーディオ製品」とジャンク物。当時高級機でも現在は非常に安価なジャンクが多数出回っています。以前お話ししましたがハードオフでラックスSQ38の皮を被った自作アンプが売られていました。全てのトランスが非常に安価なものに変更、パワー段もシングル多極管です。プリアンプ部分は若干の変更はありましたがほぼオリジナルのままです。筆者からすると価格は高価でした75000円。しかしこのSQ38の皮を被った自作アンプの製作者の技術力は凄いと思います。SQ38の皮だけオークションサイトで時々見かけます。筆者もかなり外観の程度が良いものを14000円で購入しました。勿論トランス類や真空管類は全てありません。暇な時にコツコツと自作しようと思っています。プリアンプ部分の復旧ならば後20000円もかければ蘇ります。34000円で当時的高级真空管プリアンプが実現できます。安価な昭和のリアル家電「オーディオ製品」をジャンクで購入、いつまでも修理して使いましょう。音は決して悪くありません。もったいない！SDGsのお話「オーディオ製品」です。

#### ☆ 次回は

今回はもったいない！SDGsのお話、昭和家電「オーディオ製品」について「S」=趣味的に捉えてみました。今回は筆者の独断と偏見でのお話となりました。所詮オーディオなんて・・・と考えるとおもしろいものです。喧々諤々と語ることに意味があるのでしょうか？多くの評論家やプロの方が私などに揶揄されないよう専門家としての良識を、と思います。プロオーディオを語るのも良いのですがほどほどに・・・。まもなく新年度を迎えます。フレッシュな新人やピカピカの一年生！皆様のご健康をお祈りいたします。次回？もスタジオ夜話よろしくお祈りいたします。

— 森田 雅行 —